



センター長あいさつ(藤数庸二)

今年度も残すところ2カ月となりました。

昨年5月から一月末までで約90ケースの相談を受け、来所訪問合わせて面談した回数は約350回となりました。

実質活動日数は一月末で約180日ですので、毎日2件近くの面談を行ってきたこととなります。このように書きながら、相談業務を件数で評価される事には、長年相談業務に携わってきた私自身としては、少し違和感を覚えます。

相談業務において、大切なのは量ではなく質であると私は考えます。相談に來られた方が、相談に来て良かったと感じて帰られているか、打ち明けて下さった悩みごとや困りごとが解決へと向かっているかどうか、本来大事にされるべきところだと思っております。

私たちは、福祉や教育の制度の中で活動していますので、どうしても件数で判断することができてきます。しかしながら、質にはこだわって活動していきたいと日々考えています。

このこの広場のこのこの食堂にも参加して下さる方が増えてきました。「このような活動には、多くのニーズがあるんだな」と改めて感じています。いかにして質を落とさずに多くの方々に関わることができるか。課題は山積んでいます。

このこの広場にぎわっています

くまのっ子児童家庭支援センターのこのこでは、昨年10月より、就学前の乳幼児とその保護者の方、妊婦さんにお声掛けをして、「このこの広場」を実施しています。

一月は、22日月曜日9時30分から始まりました。今回は、場所を「このこの」の本体である「NP 堂」も開催され、11時から25時0分まで、白浜レスキューネットワーク(白浜町3-37の8、白浜、パブテス教会内)で開催しました。広場には、保護者28名子ども29名が参加してくれました。

当日のプログラムは、
①自由遊び(おもちゃを介して子ども同士が遊びながらの親交流)
②リトミック(テーマは「お風呂であつたまろう」)
③読み聞かせ(絵本「やまのおぶろやさん」とよたかずひこ作「リトミックのテーマに関連して」)

一月は、22日月曜日9時30分から始まりました。

広場終了後には、「このこの食堂」も開催され、11時から25時0分まで、白浜レスキューネットワーク(白浜町3-37の8、白浜、パブテス教会内)で開催しました。

参加された親御さんは、食堂が同時開催だったことに喜んでくださる方や親御さん同士が楽しそうにお話しくださる方が多かったです。

地域が違う子どもも大人も、新たな出会いがあることが、広場のよさと感じました。

2月の「このこの広場」も、白浜、パブテス教会で実施します。

日時は、2月26日月曜日9時30分開始です。広場は「ひな祭り」プログラムを予定しています。

ひな祭りの飾りを紙で製作してもらいます。また、このこの食堂も開催します。このこの広場の最新情報を随時発信しています。

興味のある方は下のQRコードからお入りください。

このこの広場に関するトミックのテーマに関連して



このこの広場の最新情報を随時発信しています。

興味のある方は下のQRコードからお入りください。

このこの広場の最新情報を随時発信しています。

興味のある方は下のQRコードからお入りください。

このこの広場の最新情報を随時発信しています。

このこの広場の最新情報を随時発信しています。



お電話での相談

迷ってもお電話ください

0739-42-5515
(9時~17時)

このこのスタッフが電話に出ます。
留守番電話の場合には、お名前だけ残していただければ、折り返しご連絡しますので、電話番号を通知してお電話して下さいね。

LINE・メールでの相談

LINEはこちら
メールはこちら

nokonokojikasen@gmail.com

うまく文章を書けなくても大丈夫。
間違っても気にしないで大丈夫です。
書ける範囲で書いてくださったらお返事します。

相談窓口 (事前にご予約をお願いします)



通信

のこのこ

くまのっ子 児童家庭支援センター

令和6年2月号
(第9号)

運営者
特定非営利活動法人白浜レスキューネットワーク



入園・入学準備サポートアドバイス

季節が春に向かって、どんどん進んでいきます。入園・入学を控えているご家族も読者の方にはいらっしやることでしょうか。ワクワクしながら待ちわびている反面、心配なこと気になることもあるでしょう。そんな保護者のみなさんに「入園・入学準備サポートアドバイス」をお届けします。

お子様の入園を控えている保護者さんへ

保護者さんは、何と言っても笑顔で通園してくれるだろうか頭が浮かぶでしょう。

まず大切なことは、保護者さんが気になること心配なことについて、お子さんの前で不安がらないように気をつけることです。

保護者さんが、不安になっておたおたすると、子どもさんも不安になっていきたくなくなり、子どもさんも不安なことがあれば、園に連絡を入れて、保護者さんとお子さんが一緒に見学させてもらいましょう。その際に、気になることや心配なことは、園の先生にお尋ねすることがよろしいかと思えます。

日常生活では、園を楽しむに話題を親子でおしゃべりすることをおすすめします。起床するリズムづくりも大切です。朝は、そろそろ登園する時間をみこして起こすことを始めましょう。起床リズムが、つくれると、その日一日がスムーズにいくことでしよう。

そのためには、もちろん早寝が大事になります。

早寝ができれば早起きができて、朝食もきちんと取れるようになります。

お子様の入学を控えている保護者さんへ

小学校も同様です。安心できることが一番、何かあれば学校に相談してみましよう。

小学生になると、多くの場合、学校に歩いていくこととなります。そこで、入学式までに家族と一緒に歩いてみる。その時にこれらの学校で楽しみにすることを話題にできればいいと思います。

小学校入学前のお子さんは、随分とおしゃべりも上手になってきます。そこで、保護者さんが一方的に問いかけるのではなく、言葉のキャッチボールをこころがけましよう。

ことばのキャッチボールが大切

年長さんになると「抱っこはもう大きいからおかしいかな、自立していく妨げになるかな」と考えられる方もいますが、まだまだ親の温もりを肌で感じたい年齢です。

スキンシップが大切

ことばのキャッチボールとスキンシップの2つでお子さんの「こころ」の安定と安心感が生まれます。なんでも話をしてくれるお子さんとの関係づくりが大切です。

当たり前のことですが、家庭で4月からの楽しみを話題にすることが、入学前にとっても大切なことだと重ねてお伝えします。



いよいよ、
近づいてきました
ご参加
お待ちしております

Academy 子ども教養講座④

いのちを守る
最前線から

～幸せの土台となるコミュニティ創りへの期待～

先着40名
参加無料
※お子様連れも可

2024. 2.25 日

9:30~15:40
(9:00受付開始)

お申込みは
こちら

知ろう、考えよう 子どもの福祉その⑦「こども基本法」③



いっしょに学びませんか

こども家庭庁は、「こども基本法のことを知って頂き、『こどもまんなか社会』をみんなでつくっていきましょう」と訴えています。

その中で、さまざまな質問を想定するかたちで、こども家庭庁は答えています。今回はその質問と回答を紹介しましょう。

1. こども施策にこどもや若者の意見を取り入れたほうがいいのでは？

【答】もちろん、こどもや若者の意見を聴きながら、国や都道府県、市区町村は、こども施策を進めていきます

2. こどもや若者が意見を言う機会や場はありますか？

【答】こどもや若者のみなさんが意見を言える場や仕組みづくりとして以下のような方法を想定しています。

・インターネットを使ったアンケートを実施すること

- ・行政の職員が直接会って、意見を聴くこと
- ・こどもや若者を対象としたパブリックコメントの実施
(国や地方自治体が規則などを決めるときに、広く意見を募集すること)

3. こどもや若者からの意見はどのように反映されますか？

【答】こどもや若者のみなさんから聴いた意見を大事にしてこども施策を進めていきます。

例えば、こどもや若者から聴いた意見をこども家庭審議会などに届けたりしていきます。

そして、国や都道府県、市区町村は、施策の目的を踏まえ、こどもや若者の意見が実現できるかどうかを考えながら、こども施策に取り組んでいきます

以上、こども家庭庁への質問と回答を紹介いたしました。



のこのこ広場のご案内

～親子で遊びに来ませんか～



立春を過ぎ、梅の花が満開の時期を迎え、春の訪れを感じますが、まだまだ寒い日は続きます。これからは三寒四温、寒暖の差で風邪を引かないように気を付けたいですね。

五感のお話

五感とは…視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚のことをいいます。

五感とは…視覚、聴覚、触覚、臭覚、味覚のことをいいます。五感とは脳が発育において、大変重要な感覚となります。普段の生活の中でも意識すると、いろんな感覚を感じることができます。例えば春を五感で感じる。花々が咲いているのを見たり、花のいい香りがしたり、暖かさ又は寒さを感じたり、柔らかそうな木の芽に触れたり、風の強さで自然の音を聞き分けたり、春の食材を味わったりと、春を体全部の感覚で感じてみることは、脳が発育のみならず、子どもとのいいコミュニケーションになります。意識して、感じたことを言葉にして一緒に楽しんでみてくださいね。



3月の予定

3月12日(月) 自由遊び・パペット人形

26日(月) 自由遊び・エプロンシアター、大型絵本

11時頃～ のこのこ食堂 (親子 100円)

※大人一人増えるにつき+100円



場 所：白浜バプテストキリスト教会 白浜町3137-9 (TEL 0739-43-8981)

駐車場：はまゆう病院駐車場。はまゆう病院向かって右側から石階段を降りる。

日 時：毎月第2・第4月曜日(祝日は休館)

9:30～11:00 ※第4は子ども食堂開催のため12:00まで

参加費：無料

就学前の乳幼児とその保護者の方、妊婦さんも遊びに来てね。子育ての悩み等、ワイワイとおしゃべりしましょう。おもちゃで遊んだり、紙芝居を見たり、リトミック広場を開催したりします。みんなで楽しく遊みましょう。

※予約不要 ご自由に遊びに来てください。

授乳スペース、おむつ替えスペースあります

このこ食堂申込み

26日は月1回の、このこ食堂の日です。食堂利用のみ予約が必要です。利用される方は前日17時45分までにご予約下さい。右のQRコード又は、電話にてご予約いただけます。
※NPO法人白浜レスキューネットワーク子ども食堂事業の一環として、このこ食堂を開催します。



のこのこ広場

くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ

連絡先 TEL 0739-42-5515
FAX 0739-42-5516



このこの HP



G mail





INNOVATION SPRINGS ACADEMY **Academy** 子ども教養講座④

いのちを守る 最前線から

～幸せの土台となるコミュニティ創りへの期待～

「いのち」をテーマにすることで、不登校やいじめ、虐待などの問題の解決と、予防にも接近できるコミュニティのウエルビーイング（※1）について考えていきます。

講座&ディスカッション

厚生労働省によると2022年の1年間で自殺した人は21,881人。このうち児童・生徒は514人で統計開始以降初、500人を超えました。いのちのゲートキーパー（※2）と専門家が、さまざまな状況のなかで命を守り輝かせるための新たな提案と、それをコミュニティがどう受け止めていけるかをコーディネーターが紡いでいきます。

※1 ウエルビーイングとは「肉体的にも精神的にも、そして社会的にもすべてが満たされた状態」の幸福のこと
※2 自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人

先着40名
参加無料
※お子様連れも可
2024. 2. 25 日
9:30～15:40
(9:00受付開始)

対象 保護者及びその児童生徒、地域、教育、福祉に関わっている方等
どなたでもご参加ください！

講師



森崎 雅好 氏

・ 高野山大学 教授
・ 県臨床心理士会会長



新井 肇 氏

・ 関西外国語大学教授
・ 文部科学省
「いじめ防止対策協議会」座長



藤藪 庸一 氏

・ 白浜バプテスト基督教会 牧師
・ 白浜レスキューネットワーク
理事長



野尻 紀恵 氏

・ 日本福祉大学教授・学長補佐
・ 日本福祉教育・ボランティア学習
学会会長

プログラム

9:30 オープニング

9:40 提案①～④

森崎 雅好 氏・新井 肇 氏
藤藪 庸一 氏・野尻 紀恵 氏

11:50～12:50 昼食休憩（敷地内にレストランあり）

12:50 パネルディスカッション

13:40 ワールドカフェ
（講師と参加者によるグループ別の対話コーナー）

15:40 終了予定

会場案内

INNOVATION SPRINGS

〒649-2333

和歌山県西牟婁郡
白浜町中1701-3
クオリティソフト（株）新館



お申込 WEBページよりお申込みください ※定員になり次第受付終了

【主催】 白浜町社会福祉協議会 / くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ / クオリティソフト（株）ISアカデミー

【後援】 田辺市、白浜町、上富田町、すさみ町、田辺市教育委員会、白浜町教育委員会、上富田町教育委員会、すさみ町教育委員会

【お問合せ】 E-mail: isacademy@qualitysoft.com TEL : 050-3196-8051



お申込みは
こちら



こども教養講座 いのちを守る最前線から、幸せの土台となるコミュニティ創りへの期待

【主催】 白浜町社会福祉協議会 くまのっ子児童家庭支援センターのこのこ クオリティソフト(株)ISアカデミー



親子・家族関係からのいのちに関わる専門的立場から

森崎雅好

MORISAKI Masayoshi

高野山大学 教授
県臨床心理士会会長

著書；自死と向き合うー自殺防止のためにできること… (京都 阿吽社)



学校・教育現場のいのちに関わる専門的立場から

新井肇

ARAI Hajime

関西外国語大学教授
文部科学省「いじめ防止対策協議会」座長

編著書；「支える生徒指導」の始め方ー「改訂・生徒指導提要」10の実践例 (教育開発研究所)



人生をあきらめようとする人に直接向き合うゲートキーパーから

藤藪庸一

FUJIYABU Yoichi

NPO 法人 白浜レスキューネットワーク代表

著書；あなたを諦めない自殺救済の現場から (フォレストブックス)



コミュニティのウェルビーイングを求める専門的立場から

野尻紀恵

NOJIRI Kie

日本福祉大学教授・学長補佐
日本福祉教育・ボランティア学習学会会長

著書；子どもの隠された貧困とスクールソーシャルワーカーの役割 (大学図書出版)

講座の概要

今回のこども教養講座は、「いのちに関わる研究・実践の専門家とゲートキーパー」から最新の状況を踏まえた上で、いのちを守り輝かせる新たな提案がなされます。それをコミュニティがどのように受けとめていけるかを講座参加者の意見も交えて「コーディネータ」が紡いでいく参画型の学習会です。

「いのち」をテーマにすることで、子どもたちの「自死・自殺」の問題だけでなく、「不登校やいじめ、虐待等」の問題の解決と予防に接近できる地域や学校・職場といったコミュニティのウェルビーイングについて考えていきます。

午前中のセッションⅠでは、講義形式で4人の登壇者それぞれの立場から、自死・自殺に関わる考えを示します。そのうえで、問題解決のためのコミュニティへのアプローチのありかたについて、4人それぞれの考え方を述べてもらいます。

午後からのセッションⅡでは、野尻氏のコーディネートによって、各登壇者の考える「いのちを支えるコミュニティのウェルビーイング」を育み高めるためのありかたをつなげていきます。聴いている講座参加者の方々に、「ウェルビーイングの土台となるコミュニティ創り」への期待と接近の仕方を共に見出そうとするモチベーションを芽吹かせます。

セッションⅢでは、4人の講師それぞれが待つ「アイランド(島)」に例えたグループに、参加者が4班に分かれて、「上陸」します。そこで講師との意見交換をする中で、「ウェルビーイングの土台となるコミュニティ創りにより接近するには」を参加者それぞれが模索します。参加者は班ごとに20分間隔で別のアイランドに上陸して次の講師と出会い、対話を重ねていきます。

セッションⅣでは、参加者との対話で重ねた内容に基づき、講師それぞれがコミュニティ創りの新たな展開を構想して、その一端を報告します。最後にコーディネータが本日の学びをまとめて会場で共有して、会をクローズします。

※ウェルビーイングとは「肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態」の幸福を意味しています。

9:30		オープニング	開会行事
9:40	セッションⅠ	提案①	親子関係・家族関係に関わる専門的立場(森崎)から
10:10		提案②	学校・教育現場のいのちに関わる専門的立場(新井)から
10:40		休憩	
10:50		提案③	人生をあきらめようとする人に直接向き合うゲートキーパー(藤藪)から
11:20		提案④	コミュニティのウェルビーイングを求める専門的立場(野尻)から
11:50	昼食休憩(施設内には「たまな食堂」がございます)(昼食持参の場合は会場でお取りください)		
12:50	セッションⅡ	パネルディスカッション	いのちを支えあえるコミュニティのウェルビーイングについて一歩踏み込む パネラー(講師)；藤藪庸一・森崎雅好・新井肇、コーディネータ；野尻紀恵
13:40	セッションⅢ	アイスブレイキング	
13:50		ワールドカフェ①	講師と参加者がつながり、4つのアイランドでのコミュニティのウェルビーイングづくりのアイデアを話し合う
14:10		ワールドカフェ②	
14:30		休憩	
14:40		ワールドカフェ③	講師と参加者がつながり4つのアイランドでのコミュニティのウェルビーイングづくりのアイデアを話し合う
15:00		ワールドカフェ④	
15:20	セッションⅣ	クロージング	各アイランドでの話し合いの報告と振り返り
15:40		終了	

【日時】令和6年2月25日(日)9:30~15:30

【場所】INOVATION SPRINGS 649-2333 和歌山県西牟婁郡白浜町中1701-3クオリティソフト(株)内

【定員】先着40名(40名を超えた場合、その後に申し込まれた方はセッションⅣは聴講のみとなります。ご希望が多い場合は、お断りすることもございます。早い目にお申し込みください。申し込み方法はチラシをご覧ください。